



◀ 県外JAと情報交換をした協議会



## 高品質のお米を提供するために

JAあきた白神

日本の主食である安全・安心な米を安定的に消費地へ供給することを目的とした協議会「共和サミットinあきた白神」が7月21日、本店で開催されました。

このサミットは、株式会社名古屋食糧が平成21年に立ち上げ、JA当麻、JA岩手江刺、JAてんどう、JA加美よつば、JAしおざわ、JA黒部、JAあきた白神の7JAとネットワークを形成しています。当JAでは独自販売で米の有利販売を実現しようと、平成24年から参加しています。今回初めて管内で開催されたサミットには、名古屋食糧

と各JAの代表者などあわせて24人が出席し、直近の米穀情勢やJAの取組状況について意見交換が行われました。名古屋食糧の担当者は、1人当たりの米の消費量は減ってきているが、中食・外食やレトルトでごはんを食べる家庭が増えていることに触れ「飼料用米への転作で業務用米は品薄感となり、流通業界大手による産地囲い込みの動きが激しくなる」と報告。また、今後は実需者ニーズに合った米作りや、「米は太る」といった消費者が持つイメージを払拭する取り組みが必要であると呼び掛けました。

## 交通事故の恐ろしさを実感

JA共済

JAあきた白神とJA共済連秋田県本部は7月19日、能代第一中学校で自転車の交通ルールを学ぶ、交通安全教室を開きました。教室には同校の全校生徒と能代工業高校の1年生が参加し、スタントチーム「スーパードライバーズ」のスタントマンが自転車の事故場面を再現しました。

教室では、自動車にはねられる事故や傘さし運転での事故、内輪差による巻き込み事故などスタントマンが体を張って再現し、自転車の正しい乗り方と乗車ルールの遵守を呼び掛けました。能代一中の川村新之助君は「事故の瞬間を初めて見たが、改めて事故に気をつけて運転しようと思った」と話してくれました。



▲自動車に跳ね飛ばされるスタントマン



▲グラウンドゴルフを楽しむ参加者

## 会員同士が交流と親睦を深める

年金友の会

JA年金友の会が主催する「第14回グラウンドゴルフ大会」が、7月12日に大湯村多目的広場で開催され、各地区から総勢72人の参加者が集まり元気にグラウンドゴルフを楽しみました。

当日は天候にも恵まれ、会員は1プレー1プレーに歓声をあげて、日ごろの練習の成果を発揮すると共に年に1度の大会で会員同士の親睦を深めました。優勝には佐藤精悦さん（二ツ井地区）が2年連続で輝き「2連覇できとても嬉しいです。全県大会でも頑張ってきます」と喜びを語ってくれました。なお、今大会の上位10名は10月13日に天王多目的健康広場で開催される全県大会に出場します。

